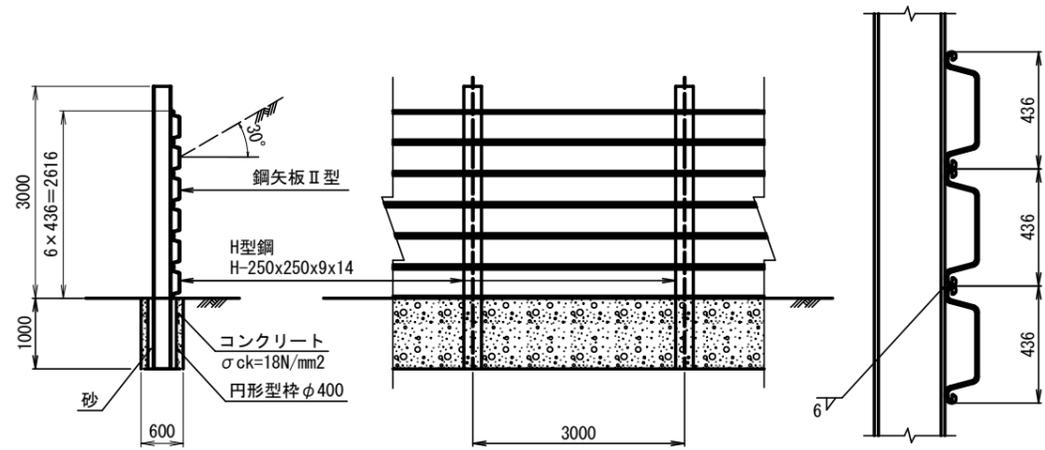


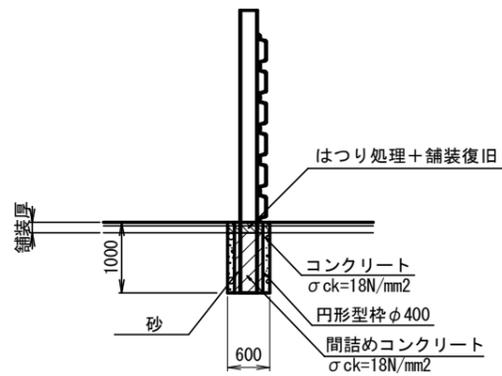
仮設防護柵標準図 S=1:50

図6-1



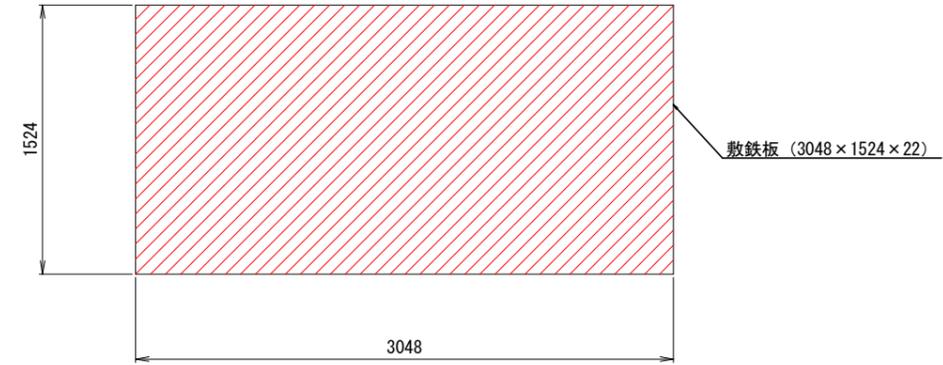
- (適用条件) ① 災害等緊急及び大きな落石のある場合に適用する。
 ② 落石及び崩積土の両方が予想される場合に適用する。
 ③ 崩積土高は2.00m、落石荷重は参考図6-2による。

参考図図6-2



仮設防護柵撤去等の穴うめは、円形型枠内に残置された砂を除去したうえでコンクリートを打設し、必要に応じて基礎表面をはつり、現道と同程度以上の厚さにより舗装復旧を行うこと。
 なお、舗装面の不陸を防ぐためにコンクリート基礎の土かぶり厚は50cm以上とするのが望ましいが、少なくとも表層と路盤の2層以上の舗装厚を施すこと。

敷鉄板標準図 S=1:20



数量計算

工種	計算式	数量	単位
(土工)			
掘削(土砂)	$(0.2+3.4)/2 \times 19.0 + (3.4+6.1)/2 \times 16.9$	= 114.5	m ³
積込(ルース)		= 114.5	m ³
残土運搬・処理(土砂)		= 114.5	m ³
切土法面整形	求積表より	= 1121.5	m ²
(法枠工)			
吹付法枠(□300, 主筋D16)	616.1 + 506.2	= 1122.3	m
ラス張工	求積表より	= 1121.5	m ²
水切モルタル	$0.3 \times 0.24/2 \times 511.9$	= 18.4	m ³
植生基材吹付 t=3cm	$1121.5 - 1122.3 \times 0.3 - 0.24 \times 511.9$	= 662.0	m ²
(仮設工)			
仮設防護柵 撤去	3.0×36.0	= 108.0	m ²
H鋼(H-250)	$0.0718 \times 4.0 \times 13.0$	= 3.73	t
鋼矢板(II型)	$0.048 \times 36.0 \times 6.0$	= 10.37	t
敷鉄板 撤去	1.5×24.5	= 36.8	m ²
敷鉄板(22 × 1524 × 3048)	$36.8 \div (1.524 \times 3.048)$	= 8.0	枚
コンクリート	$(0.2 \times 0.2 \times \pi \times 1.0) \times 13.0$	= 1.6	m ³
上層路盤	0.6×36.0	= 21.6	m ²
表層(Co)	$0.6 \times 36.0 \times 0.1$	= 2.2	m ³
(運搬工)			
仮設材等運搬	$(0.802 \times 8.0) + 14.10$	= 20.52	t
積込 取御し	$(0.802 \times 8.0) + 14.10$	= 20.52	t
(準備工)			
天然生林伐採 10cm		= 1.0	本
天然生林伐採 15cm		= 5.0	本
伐採木運搬(枝葉)		= 1.0	台
処分料	$(6.0 \times 0.14 \sim 2 \times 0.25 \times 3.14 \times 5.0) \times 0.55$	= 0.25	t

佐 川 町			
工事種別	町道旧国道33号線道路災害本復旧工事		
図面名称	吹付法枠工求積図	縮尺	S=1:100
路線河川名	町道旧国道33号線		
工事箇所	高知県 高岡郡 佐川町		
設計種別	実施図	図面 番号	7
事務所名	佐川町建設課		7
会社名			